

ニュースレター

いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局 指導普及課
西表森林環境保全ふれあいセンター
平成 23 年 7 月 発行 No. 30 号



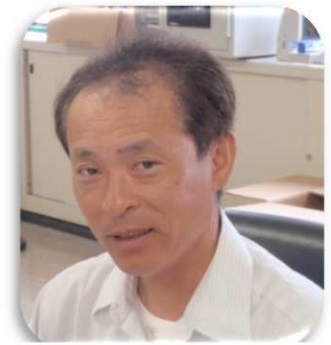
サガリバナ

発行にあたって

平成 18 年 7 月 31 日にニュースレター「いりおもての森から」第 1 号を発行し、今回で節目の 30 号を迎えました。

当センターの主たる業務である①自然再生②生物多様性の保全③森林環境教育④エコツーリズムについて、各業務の取り組み状況等をより解りやすく説明する事を心掛け掲載しています。また、亜熱帯に位置する西表島の植物の紹介や、平成 19 年 8 月発行第 8 号に掲載しました【雑記】西表島の新名所「やまねこ岩」等、西表島に興味・親しみを感じて貰える様な記事も掲載していますので、幅広い層の方々を読んで頂くことを願っています。

今年度の事業も本格的にスタートし、今回は、各種モニタリングの実施内容を中心に掲載しています。今後は更に、次回の発行を心待ちにさせていただけるよう各業務の内容充実に努めていきたいと考えています。



山下義治所長

船浦中学校の「浦内川筏下り」行事を支援

船浦中学校の三大行事である「浦内川筏下り」が 5 月 20 日に実施され、当センターも森林環境教育支援の一環として参加しました。

当日は絶好の天気恵まれ、浦内川駐車場で結団式を行い、一行 45 名（生徒 15 名、職員保護者等 30 名）は出発地点である浦内川上流の軍艦岩まで観光船等で移動しながら、浦内川流域にあった稲葉村跡等の歴史について勉強しました。軍艦岩からライフジャケットを身につけ 4 艇の筏（1 艇 7～8 名）に分れてスタートしました。途中、筏上で昼食をとり、筏から降りて琉球大学の馬場先生、成瀬先生方によるヒルギやカ二等の説明を受けながら、浦内橋までの約 5 km の行程を無事に終えることができました。

関係者の皆さん、お疲れ様でした。



写真 1 船浦中学校筏下り結団式



写真 2 浦内川筏下り風景

仲間川保全利用協定締結者が行うモニタリング調査を支援

仲間川保全利用協定の締結事業者が行う①砂泥の移動、②ヒルギ類の幼木の成長についてモニタリング調査の支援を4月14日（木）に行いました。

砂泥の移動調査では、平成19年1月の調査開始時と比較して2地点で土砂が堆積し、3地点で土砂が流失していました。土砂流失は、最も下流の調査地点で約38cm、次の調査地点で約26cmと、下流域の調査地点で顕著となっています。

ヒルギ類の幼木の成長調査のうち着葉数については、平成21・22年4月の調査結果と同様に冬期に減少する傾向を示しています。また、新芽が確認できたことから次回の調査では上長成長が期待できます。



写真3 砂泥の移動状況調査

森の巨人たち百選

仲間川の「サキシマスオウノキ」のモニタリング調査を実施

西表島の生態系を代表する植物で、森の巨人たち百選に選定されている仲間川のサキシマスオウノキのモニタリング調査を5月30日（月）に実施しました。

調査項目は、生育状況の調査、周辺の光環境、林床植生や着生植物、土壌硬度、枝張りについて実施しました。また、今年度は調査開始以来5年を経過したことからサキシマスオウノキを囲むように設けられたコドラート区域内の構成樹種の変化についても調査しました。

調査数日前に通過した台風2号の影響が心配されましたが、その影響はほとんどありませんでした。

前回調査と比較して、光環境、林床植生、土壌硬度、そして構成樹種での調査データで変化がありました。光環境の変化は、これまでも5月期が低く11月期が高いという傾向を示していましたが、今回も同じ結果となりました。林床植生は、クロヨナやサガリバナなどの稚樹が多く発生し、前回調査時より1.5倍の多さでした。土壌硬度については、前回調査時より変化の大きい結果となりました。

また、5年ぶりに調査した構成樹種は、サガリバナの成長が顕著である反面、サキシマスオウノキの成長は隠微な傾向にあることが判明しました。



写真4 土壌硬度の調査

森の巨人たち百選

「ウタラ川上流ヒルギ（オヒルギ）」のモニタリング調査を実施

浦内川の支流ウタラ川沿いのマングローブ林内に生育する、森の巨人たち百選に選定されている「ウタラ川上流ヒルギ（オヒルギ）」の樹高・胸高直径の測定と周辺植生や地盤高などのモニタリング調査を6月13日（月）に実施しました。

この日は、素晴らしい晴天に恵まれたため、周辺の光環境を調査するための写真は、強い日差しの影響で撮影出来ず、後日16日に実施しました。

オヒルギ自体の生育状況に変化はありませんでしたが、周辺の林床に生育している樹種で、オキナワシャリンバイなどが前回調査より7本増加していました。

また、オヒルギ、サガリバナの稚樹のうち8本が成長著しく、今回から周辺植生樹種に区分し樹高、胸高直径の調査を開始しました。

調査を実施した両日は、最高気温が30度を超す猛暑の中、浦内川支流のウトラ川沿いの約1キロの歩道と道なき林内を歩いて現地まで行きましたが、途中のマングローブ林やアダンの森で足下をとられながら息も絶え絶えの状態で行き着き調査しました。



写真 5 胸高直径の測定

船浦ニッパヤシ植物群落保護林のモニタリング調査を実施

船浦ニッパヤシ植物群落保護林において、ニッパヤシの葉長、周辺の光環境、塩分濃度等のモニタリング調査を6月27、29日(月、水)の2日間にかけて実施しました。

今回から、明らかに株が分かれている個体について新たに区分分けを行い、新しいタグ(番号札)を一葉ずつ取付け、その葉長・葉幅の測定、茎径の大きさなど詳細な情報の収集に努めました。

今後の取りまとめについては、関係者の意見を伺いつつ、分かり易い報告書になるよう努めていきます。

今年度は、地盤高測定箇所拡大、小葉調査、葉の生存期間の確定や種子等の結実状況等についての詳細なモニタリングに努めていながらニッパヤシの成長の過程を見守っていきたいと考えています。



写真 6 小葉調査風景

仲間川木道周辺のモニタリング調査を実施

仲間川支流の北船付(ニツツキ)川の木道周辺に設定したマングローブ林のモニタリング調査を5月17日(火)に実施しました。

調査項目は、立木の生育状況を含めた毎木調査、砂泥の移動状況を調べるための地盤高調査、林内の光環境調査、砂泥地の塩分濃度調査そしてデジカメによる定点観測撮影を実施しました。しかし当日は生憎の雨模様で、作業の半分を19日に再度実行し調査を終了しました。調査地のオヒルギ等生立木に大きな変化はみられませんでした。一年前の調査で78本確認出来た稚樹が今回37本の確認に留まり半減しました。この稚樹の衰退は、満潮時に約1m近くまで冠水する潮位の影響が大きいのかもかもしれません。実際、干潮時の現場は砂泥が柔らかく足を取られながらの困難な作業を強いられました。

ガイドの皆さんから頂いた報告では、平成21年度は多種多様な動物の確認が報告されましたが平成22年度は種類、確認件数とも減少しています。今後、多種多様な動植物のモニタリング情報を報告して頂くことを期待しています。

イリオモテヤマネコの活動を観察するため自動撮影カメラを設置したところ、これまで数回の撮影に成功しました。これによりこの周辺環境がイリオモテヤマネコの生育に適応していることを再確認出来



写真 7 ぬかるむ足場に悪戦苦闘!

ました。今後もこの自然環境に変化が生じないよう見守りつつ観察していくこととします。

平成23年4月～6月期におけるヒナイ川・西田川の利用状況

ヒナイ川の利用状況調査を4月22日、5月23日、6月30日に、西田川は4月25日、6月21日にそれぞれ実施しました。

ヒナイ川では、4月期はカヌーツアー12組（ガイド含め45名）、5月期はカヌーツアー8組（ガイドを含め25名）、6月期はカヌーツアー15組（ガイド含め56名）でした。

一方、西田川の4月期はカヌーツアー1組（ガイド含め5名）で、6月期はカヌーツアー3組（ガイド含め11名）でした。

利用者の多くは関東地方からのツアー客ですが、昨年同期と比較しますと利用者が減少しており、西表島全体の観光業にも影響が出ているのではと危惧するところです。

東日本大震災の影響が海を隔て遠く離れた西表島にも影響を及ぼしているようです。大震災からの一日も早い復興を願っています。



写真 8 オランダからのツアー客

西表島の植物

ムクイヌビワ

学名：Ficus irisana

科名：クワ科

属名：イチジク属

分 布

沖縄島、北大東島、南大東島、石垣島、西表島、与那国島に分布する。

形 態

常緑の高木で、葉は互生し革質で全縁、卵形をしており葉先は鋭形、長さ6～11 cm、幅3～6 cmです。実は球形で径1 cm程度の大きさ、熟すと黄色または赤黄色になります。

種子は長さ1 mm程度の楕円形をしています。雌雄異株



林野庁 九州森林管理局 指導普及課 西表森林環境保全ふれあいセンター

〒907-0004 沖縄県石垣市登野城 55-4 石垣地方合同庁舎内

TEL：0980-88-0747 FAX：0980-83-7108

URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>